

基礎教育科目の科目概要(1) -入門ゼミ、基礎教養-

科目区分	科目名	科目概要
入門ゼミ	基礎ゼミⅠ	大学教育における学びを最大化するための基礎的な技能として、学修に関する基礎的な知識・技能の修得を目的とし、論理的な表現力、伝わる表現力の基礎的な養成を目標とし、論説的な文章や調査に基づくデータを読解し、意味を取り出すトレーニングを行う。また、その意味を伝える的確な表現の重要性を理解しレポートの作成方法を修得する。
	基礎ゼミⅡ	「基礎ゼミⅠ」に引き続き、コミュニケーション能力と各専門分野について考えるための基礎的思考力を修得することを目的とし、コミュニケーションに必要なツールの有効な活用方法とプレゼンテーションの意義を理解する。また、的確な課題設定と調査、探究の基礎を学び、適切な表現方法を用いてプレゼンテーションを個人で行えることを目標とする。
基礎教養	文章表現の技術	社会の出来事に幅広く関心を持ち、理解するための知識・技能の修得のうち、特に言語（文章表現）について理解を深め、基本的な文章表現スキルを習得し、学修及び将来の職業・社会生活に活かすことをねらいとする。多元・多様な目的や条件を設定しながら、文章を書くことを実践するとともに、自らの表現力への転移を図るために、目的や趣旨にかなった実例について分析し、そのポイントや工夫を学ぶ。
	くらしと倫理学	「倫理」という言葉を丁寧に調べることで、くらしの倫理とは何か？家族倫理とは何か？世代間倫理とは何か？情報倫理とは何か？メディア倫理とは何か？について考えていく。内容としては、ケータイやスマートフォンなどの、情報メディア革命による社会環境の急激な変化と、変貌する「くらしの倫理」とに、対応できる倫理観について、テキストや辞書、さらに日々の新聞記事やビデオ教材を参考にしながら、皆で意見を交換したり、レポートにまとめたりして、各自が自分の意見を固め、表現できるようにする。
	くらしと文学	主に、古典文学を素材に、日本文化の特質等を通して作品を理解していく。まず、日本の文化を外国文化の受容とそこから生まれる独自性という視点から、全体的に捉える。そして、これらが日本の古典文学にどのように反映しているのか、時代、社会の変化とともに追ってみながら文学作品と現代のわたしたちの生活文化との関わりを理解する。取り上げる作品は、上代から近世までの主要な作品であり、これをとおして、日本の古典文化と文学史の基礎知識も得ていく。
	くらしと憲法	憲法は、国の最高規範であり、国政の運用はすべて憲法に従って行われなければならない。その意味で、主権者である国民は、憲法がどのような理念及び基本原則から作られ、どのような内容を持つかについて十分理解しておくことが必要であり、それは一方で国民の責務でもある。そのような視点から、日本国憲法の基本的な仕組み・内容の理解に重点をおき、国民であるわたしたちがどう憲法と向き合うべきかを考える。
	くらしと経済	私たちのくらしと深い結びつきを持つ、日本の「産業構造のしくみ」を理解するために必要な基礎的統計資料等をテキストとして編集して配布資料とし、同時に統計の読み方を学修する。なかでも以下の6つの課題を学習する。①人口の動態とその推移を学ぶ。②少子・高齢化時代の社会と生活、特に少子化対策を考える。③わが国のエネルギー資源の現状を学び、同時にエネルギーの国際環境を学ぶ。④企業のしくみと社会との関係性を学ぶ。⑤日本産業の中核部分たる製造業の1960年代以降の動きと実態を学ぶ。
	くらしと哲学	「在る」とは何か。「在る」ことの不思議さを古代ギリシア人は、タウマゼイン(存在驚愕)と名付けたが、この授業では、ヨーロッパ文化の源泉としての古代ギリシア哲学について学ぶことを通して多様なものの考え方や生き方について総合的に理解する力を培う。また、意見交換等によって自ら考える姿勢や課題解決能力を身に付ける。哲学が科学や宗教とどのように異なるか、哲学の祖タレスの意義、想起説を唱えたソクラテス、アイデアを探究したプラトン、学問体系の創始者アリストテレス、そしてストア学派、懐疑派など、ギリシア哲学の第一期から第三期までを順に学修していく。
	日本語のしくみ	あたかも空気のように身の回りにありながら見えない、アタリマエのことばについて考えるため、さまざまなトピックスに基づいて、日本語を客観的かつ批判的ににとらえるための視点の養成を身に付ける。取り扱うテーマは、音声、語彙、表記、文法、方言と標準語の、大きく分けて5分野に相当し、各テーマ内では1回読みきり型のトピックスを取り上げ、身近な話題から理論的な話題にまで適宜グループワークもとり入れながら展開させる。
	ことばとコミュニケーション	私たちが言葉を発したとき、いつも意図通りに理解されるとは限りない。ことばが生むさまざまな誤解には、どんなものがあるのか。また、ことばは変わる。ことばの用法の変化には、どんなコミュニケーション上の動機があったのか。標準語が普及し、以前に比べて方言があまり使われなくなっている。では、今、方言のコミュニケーション上の役割とは何か。このような観点から、ことばとコミュニケーションの関わりを見ていく。
	民俗と歴史	民俗とは、祭礼行事・芸能・信仰・生活用具・民話など一般庶民の生活文化・伝承文化をさす。暮らしの中で代々伝承されてきたそれら有形と無形の民俗資料や事象を調査研究の対象とし、そこに見出される人々の心意や精神性などを明らかにしようとするのが民俗学である。本科目では民俗学を伝承史学ととらえ、民俗資料や事象を考察するにあたっては常に地域の歩みや暮らしの変遷と重ね合わせて理解していく。民俗と歴史を一体的に学ぶことを通して「人間」を総体的に把握しようとするものであり、授業では主に山形県内の民俗事例を考察の対象とする。
	社会学と社会システム	現代社会にはさまざまな問題が噴出ししている。これから家族、労働、性愛、地域はどうなっていくのか。さまざまな社会問題について、その実相や背景を検討していきながら、それらが今後どうあるべきか、またそのために何をすべきか、といったことを考えていく。毎回ひとつずつ具体的な社会問題を取りあげ、それに関連する資料やデータをもとに、参加者どうして意見交換を行ったり、それをうけての解説を行ったりしながら進めていく。

環境と生物を考える	<p>生物と環境との関わりについての見方や考え方を、体験型実験・実習を通して学修し、生物の多様性や生物の同定方法を実感するとともに環境保全の重要性を理解する。月山と寒河江川をフィールドとして、「高山植物と環境」「水圏における光合成生物と環境」「底棲生物と河川環境」「植物の形態と検索」について実習し、われわれの周囲に数多くの生き物が生きていることやその生息が環境と密接に関係していることを実感、理解し、その考察として生物の多様性や生物の環境に対する適応、さらに環境保全の重要性について理解を深める。</p>
生物学の探究	<p>普段、飲食している栄養ドリンク剤や食べ物に記載されている物質について考えるためには、記載されている物質が、生命を維持する「しくみ」でどのような役割を担っているかを知る必要がある。また、これらの「しくみ」は環境に順応する形で進化し獲得されてきた。授業では、生物がどのような物質を、どのように活用して現在の生存と繁殖のシステムを進化させてきたかを、体を構成する基本物質の化学的性質や基本的な化学反応を考えながら進める。授業中に課題を出し、グループあるいは個人で考え、考え方を発表し、つまずきを確認しながら進める。</p>
人間と宇宙を考える	<p>宇宙を科学的に理解することは、生命観・自然観・人生観を考える上で大切であると考え、この授業では現代天文学が明らかにしてきた宇宙について学修する。前半は、光学望遠鏡の仕組み等、星空を見るために必要な知識や技術を学修する。後半の内容は、宇宙物理学が主になる。はじめに恒星について学び、銀河や宇宙全体へとスケールアップしていく。</p>